

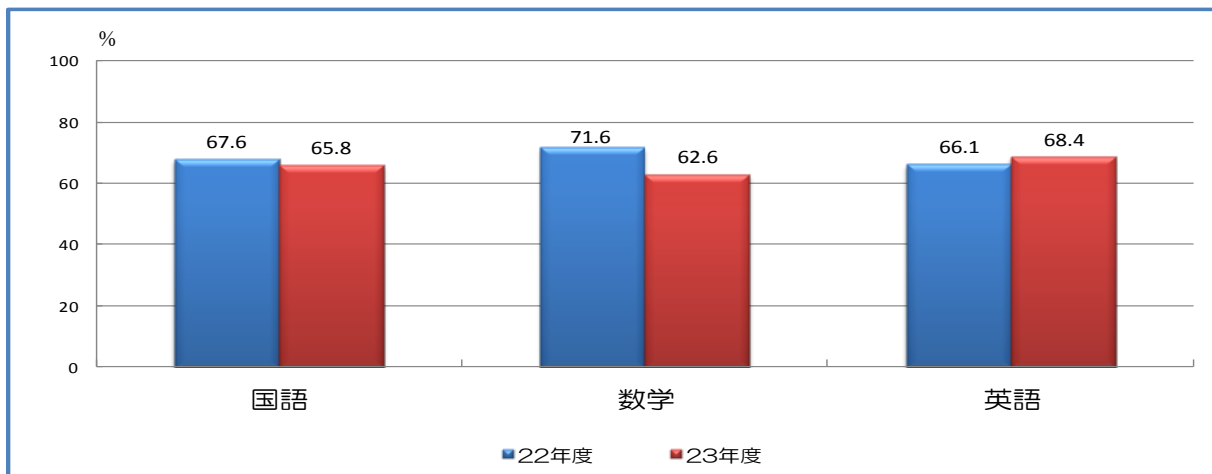
# 平成 23 年度京都府中学校学力診断テスト結果の概要について

平成 23 年 12 月 15 日  
学 校 教 育 課

- 1 実施日 平成 23 年 10 月 26 日（水）
- 2 実施対象 府内全中学校（99 校） 特別支援学校（3 校）の第 2 学年生徒
- 3 実施教科及び受検者数 国語（10,039 人） 数学（10,040 人） 英語（10,046 人）
- 4 問題内容及び問題数
  - (1) 基礎・基本に関する問題・・・15 問
  - (2) 活用に関する問題・・・10 問
  - (3) 質問紙調査・・・24 問

## 5 全体の状況

- 学力調査では、「書くこと」に関する問題で伸びが見られ、「言語活動の充実」を目指した授業改善が進んでいる。
- 質問紙調査では、朝食、読書の習慣など複数の項目で改善が見られ、各学校での学習習慣や生活習慣の確立の取組が少しずつ成果として表れているが、家庭学習の定着には課題がある。
- 今後、「中学校学力状況分析・活用講座」を実施する。（平成 24 年 1 月 24 日・26 日）、また、「京都府学力診断テストを活用した学力の経年比較に関する調査研究」（京都府総合教育センター 平成 23 年 6 月発行）を活用していく。



※数値はすべて正答率（%）

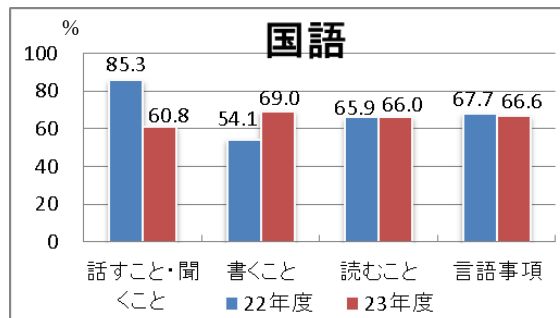
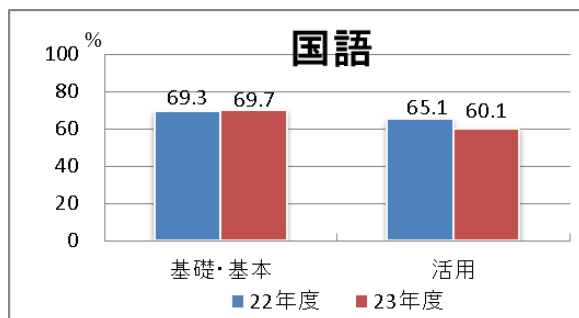
## 「京都府教育振興プラン」目標指標

目 標 指 標	23 年度結果
正答率が 50%未満の子どもの割合 → 25%以下	国語 20.3%
	数学 30.7%
	英語 21.5%

## 6 教科別の状況

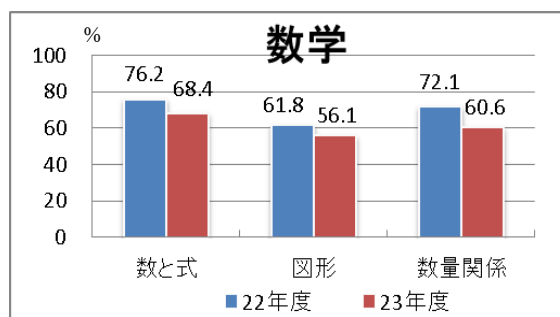
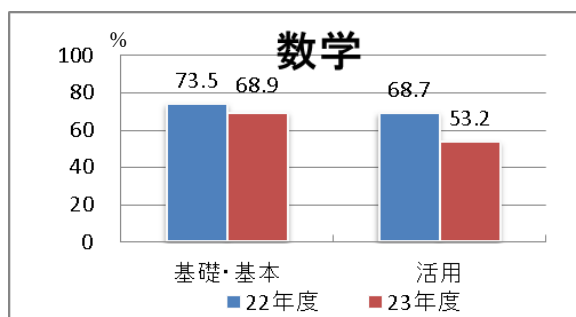
### 【国語】

- 放送で聞き取った内容をもとに、話し方の工夫について問う問題では、話し合いの話題や方向をとらえて適切に話をしたり、自分の考えとの違いを整理しながら聞いたりすることに課題がある。対話や討論など話し合いの場面を実生活の中で多く取り入れていくことが必要である。
- 「書くこと」においては、「ことばの力」の育成の取組から授業の中に書く場面を多く取り入れたり、様々な種類の文章を書く機会を設定したりすることで、書くことに抵抗がなくなるなど授業改善の成果があった。



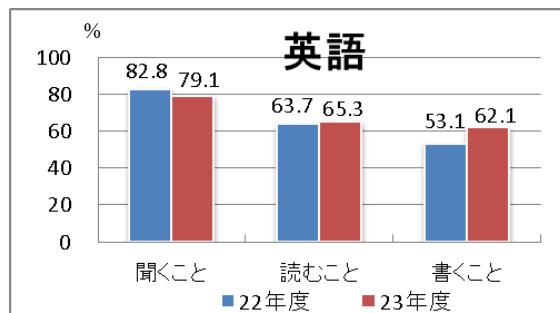
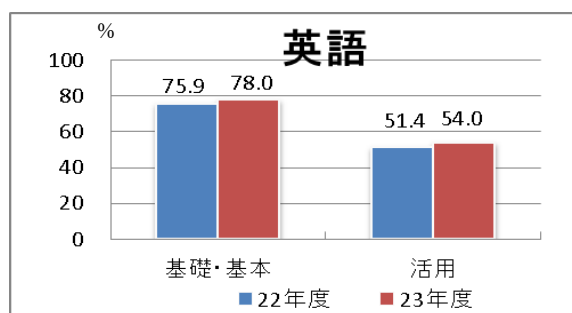
### 【数学】

- 活用問題については、式やグラフなどから必要な情報を読み取り、問題解決に活用することに課題がある。図・表・グラフ等を活用することや、式の意味を読み取ることを授業に多く取り入れることが必要である。
- 正負の数の計算や方程式の解法等の基礎的な問題については確実に処理できるが、日常の事象を数理的に考えることに課題があるため、日常の事象を観察し数学化するなどの活動を取り入れることが必要である。



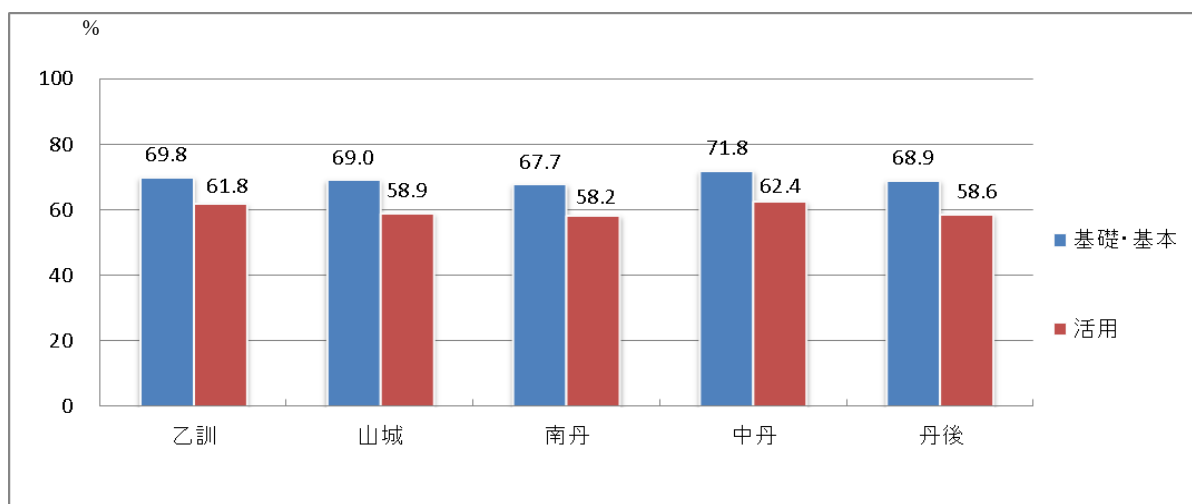
### 【英語】

- 「書くこと」において、「テーマに従った作文」を設定した。「正確さ」では動詞の脱落や、三単現のSの脱落などの誤答が多く見られたが、昨年度よりも「無答」や「正しい文の数が0」の割合が減少し、正答率も上昇した。普段の授業の中で、英文を書く機会を増やしている成果があった。
- 「聞くこと」に関する活用問題において、聞き取った情報を整理しながら解く問題については、正答率が低かった。まとまった量の対話を聞いたり、読んだりすることを、授業の中で多く取り入れる必要がある。

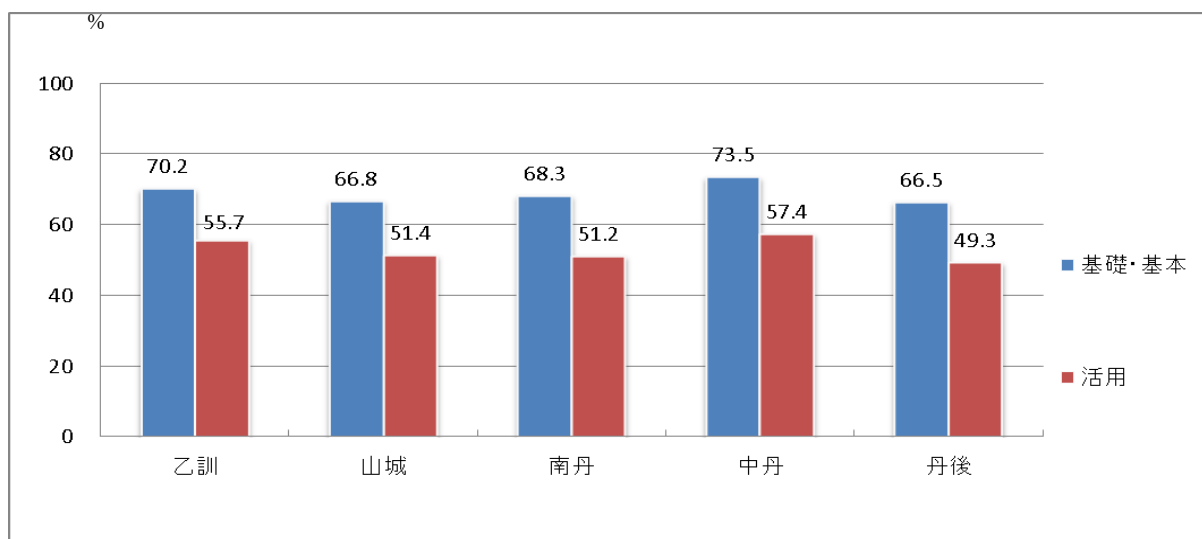


## 7 教育局別の状況

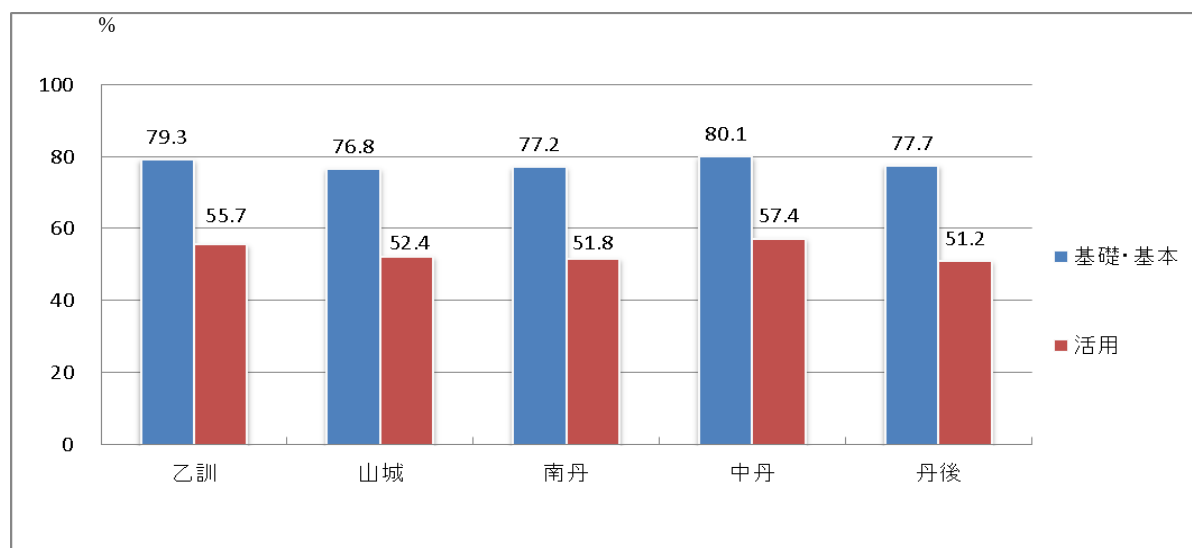
### 【国語】



### 【数学】



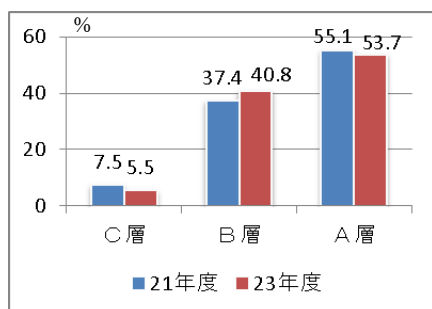
### 【英語】



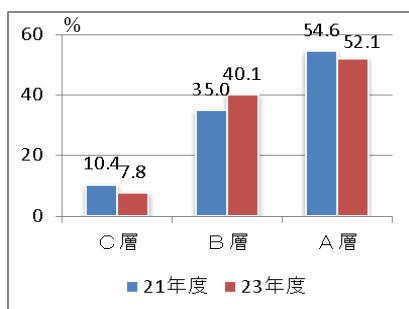
## 8 学力分布の経年比較

中1振り返り集中学習「ふりスタ」が実施されていなかった21年度の中学2年生と、ふりスタを受講した生徒がいる23年度の中学2年生の結果を比較すると、三教科とも課題がある学力層がやや減少している。

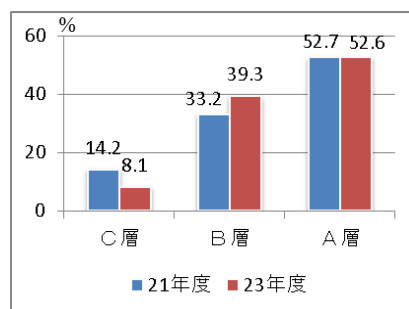
【国語】



【数学】



【英語】



### 【分析方法】

- 各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層とし、平均正答数未満の生徒をB層（上位）、C層（下位）に二分して分析

## 9 質問紙調査の状況

平成21年度の全国学力・学習状況調査（中3対象）と学力診断テスト質問紙結果とを比較

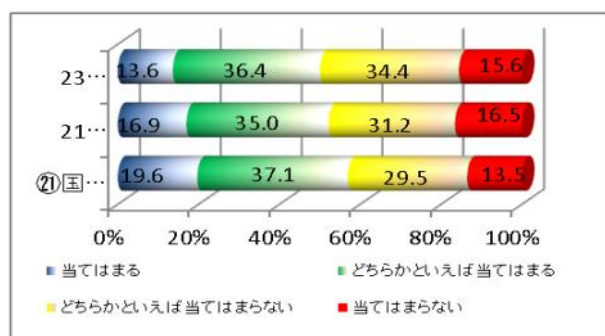
### 【グラフの縦軸項目の説明】

- 23 → 23年度府学力診断テストの府平均（中2対象）
- 21 → 21年度全国学力・学習状況調査の府平均（中3対象）
- ㉑国 → 21年度全国学力・学習状況調査の全国平均（中3対象）

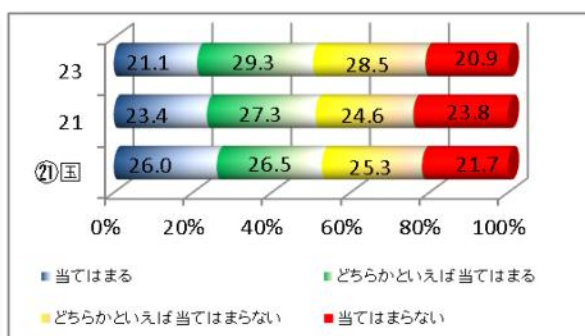
京都府教育振興プランにおける目標指標の目標を表示

### (1) 学習意欲の向上

#### 【質問1】国語の勉強は好きだ。



#### 【質問3】数学の勉強は好きだ。

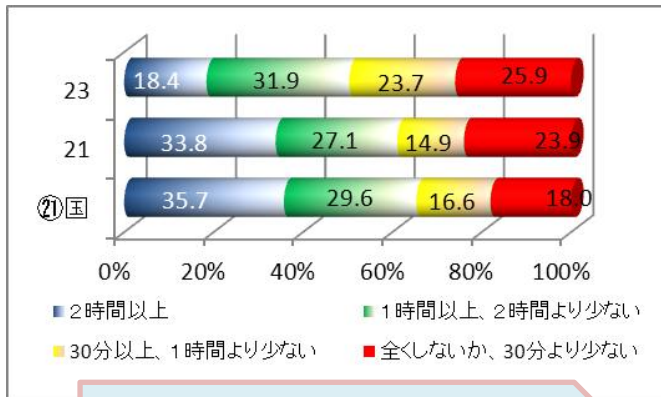


「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合増加させる

国語、数学ともに21年度の中3生とほぼ同じ結果であった。「授業で学習したことは将来社会に出たときに役立つか」という質問には、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒は、国語では85.3%（10.3ポイント増加）、数学では76.3%（17ポイント増加）とそれぞれ高い値を示している。将来役立つと思っている生徒は増加しているので、今後さらなる「魅力ある授業」づくりを目指していきたいと考える。

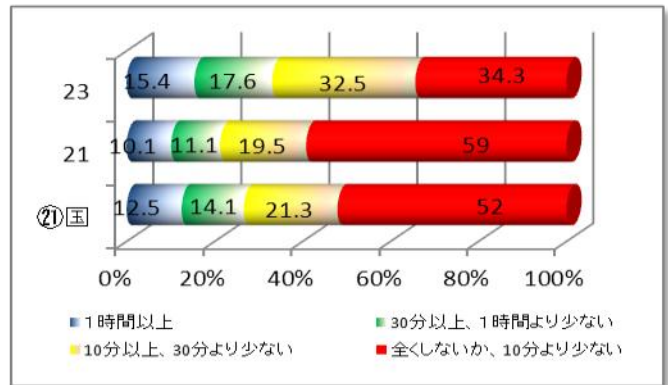
## (2) 学習習慣の定着

【質問 7】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）



30分に満たない子どもの割合  
→ 10%以下

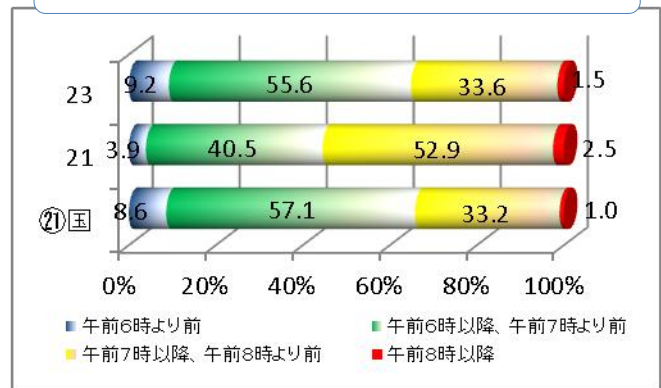
【質問 9】家や学校や図書館で、普段、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか。



学習意欲を向上させる取組や、読書の習慣を図る取組の成果が表れてきた。一方で、家庭学習の定着には課題がある。

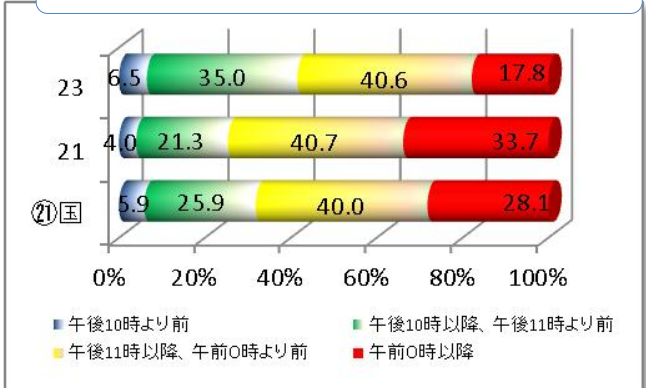
## (3) 健やかな身体の育成

【質問 10】普段、何時ごろに起きますか。



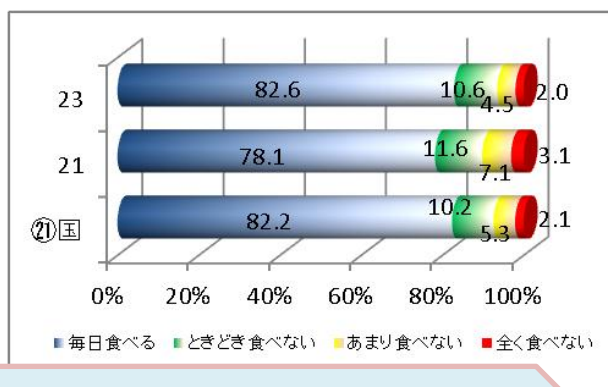
7時までに起床する子どもの割合  
→ 全国平均以上

【質問 11】普段、何時ごろに寝ますか。



12時までに就寝する子どもの割合  
→ 全国平均以上

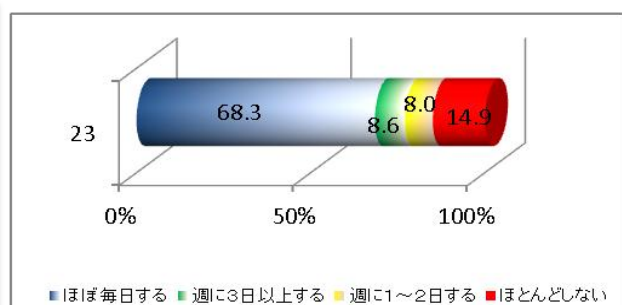
【質問 12】朝食を毎日食べますか。



朝食を毎日食べる子どもの割合  
→ 90%以上

基本的な生活習慣の確立に向けた取組が進んできたと考えられる。

【質問 13】学校の体育の授業以外で、週にどれくらい運動やスポーツをしますか。（部活動の時間含む）

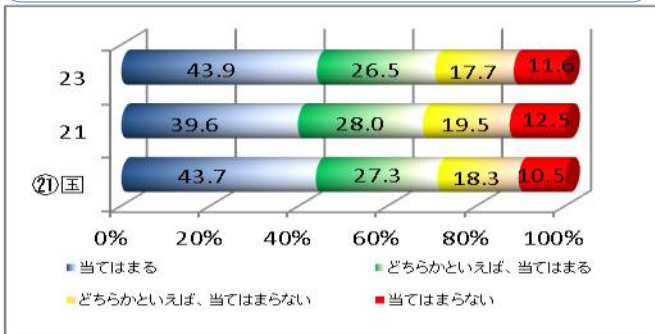


学校の体育の授業以外で週1日以上運動やスポーツを行っている子どもの割合  
→ 90%以上

学校の体育の授業以外で、週にどれくらい運動やスポーツをしますか。（部活動の時間含む）【質問 13】  
平成 21 年「全国体力・運動能力、運動習慣等調査 中2 84.7%  
平成 23 年「中学校学力診断テスト 中2 84.9%

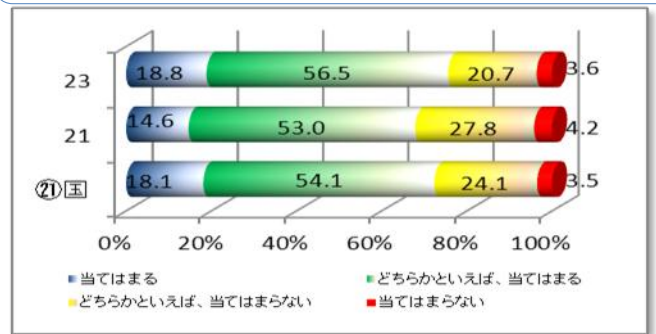
(4) 自尊感情や人を思いやり尊重する心

【質問 17】 将来の夢や目標を持っていますか。



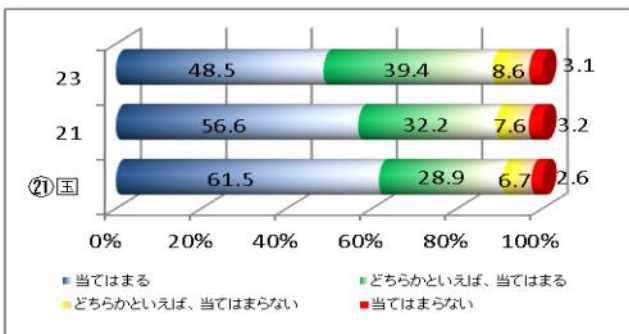
自分の夢や目標を持っている子どもの割合  
➡ 増加させる

【質問 18】 人が困っているときは、進んで助ける。



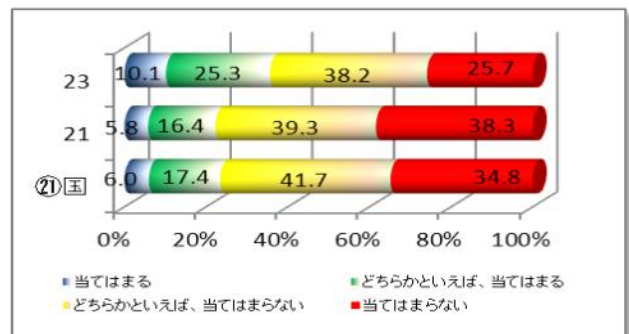
人が困っているときは進んで助けようとする  
子どもの割合 ➡ 増加させる

【質問 19】 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



人の役に立つ人間になりたいと思っている  
子どもの割合 ➡ 増加させる

【質問 24】 自分の住んでいる地域の自然や歴史について関心がある。

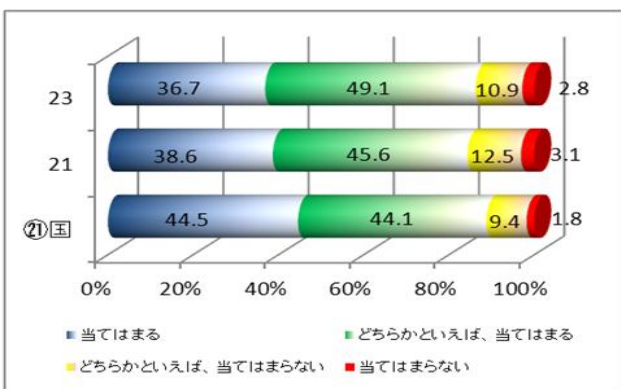


地域の自然や歴史について関心がある  
子どもの割合 ➡ 増加させる

増加傾向にある。道徳教育の推進や職場体験、国民文化祭に向けての取組もあって  
地域や人と関わる経験が増えたと考えられる。

(5) 規範意識を高める

【質問 21】 学校や社会のきまりを守っていますか。



学校のきまりや規則を守ることを日常的に  
意識している子どもの割合 ➡ 増加させる

社会体験活動の充実や非行防止教室  
を積極的に実施する等、生徒がルールや  
マナーを学習する機会を増やして社会  
性をはぐくんでいく。